様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：１５３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2019
課題番号：１５Ｋ０４１２６

研究課題名（和文）対人援助職者・訓練生のセルフケア力を育み職業不適応を予防する心理教育に関する研究

研究課題名（英文）A Study on Psychoeducation to Enhance Self-care and to Prevent Burnout among Human Service Professionals and Graduate Trainees

研究代表者
安藤　美華代（ANDO, Mikayo）

岡山大学・社会文化科学研究科・教授

研究者番号：６０４３６６７３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、こころの問題を予防したり対処したりする力を高め、こころの健康を保持増進し、社会の中で自分らしく生きる基礎力を身につけるための心理教育“サクセスフル・セルフ”を、対人援助に携わる学校教師、多職種新人医療従事者、心理臨床訓練生へ対象を広げ、セルフケアとしても有効な内容へ発展させることを目的とした。
各対象者に沿った内容に改訂を重ね、効果に関する検討を行った。その結果、いずれのプログラムにおいても、目的に沿った有用性が見られた。さらに、教師、新人医療従事者では、それまで見られていた離職者は減少した。訓練生では、本取り組みは“自分”と向きあう機会になり、不適応の予防の一助になった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
学校教師、多職種新人医療従事者といった対人援助職、心理臨床訓練生においては、多様な対人関係に対処するセルフケア力を向上させる支援の重要性が示唆された。そこで、教師、医療従事者、心理臨床訓練生向けの心理教育“サクセスフル・セルフ”の開発に取り組んだ。実践研究により、多年代層および多職種の対人援助職において、自己理解を深め、人間関係力や問題に対処する力を身につけることは、こころの問題を予防し、こころの健康を保持増進し、社会の中で自分らしく生きるのに重要であり、そのツールとして、仲間と一緒でもセルフケアとしてでも活用できる心理教育“サクセスフル・セルフ”が役立つことが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：　“Successful Self” is a psychoeducational program to enhance basic life skills to become oneself in society, to prevent some aspects of psychosocial distress and problem behaviors, and to improve one’s own mental health. The objective of this study is to enhance self-care and to prevent burnout among schoolteachers, new medical workers with various specialties, and graduate trainees using the psychoeducational program “Successful Self.”
The study evaluated the usefulness of training based upon the psychoeducational program “Successful Self” after modifications based on intervention studies. All programs showed effective outcomes related with the program objectives. There were fewer dropout staff among the schoolteachers and medical workers in the institutes. There were also opportunities to understand being oneself and to prevent suffering from psychosocial distress.

研究分野：臨床心理学

キーワード：対人援助職　セルフケア　職業不適応　予防　心理教育　抑うつ　不安　マインドフルネス

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

## １．研究開始当初の背景

教師、医師や看護師等の医療従事者、心理職等、対人援助に携わる専門職やその訓練生が心の健康を保つことは、援助者自身の生活の質の維持や成長のためにも、被援助者へのよい援助のためにも極めて大切なことである。そのようななか、経験年数１年未満の研修医や看護師といった新人の対人援助職の抑うつ状態等の心の健康問題の深刻さが、浮き彫りになっている。

そこで、2009 年度から研修医を対象に、さらに 2010 年度からは新人の多職種医療従事者を対象に、患者－医療従事者関係の質の向上を目的として、こころの問題を予防したり対処したりする力を高め、こころの健康を保持増進し、社会の中で自分らしく生きる基礎力を身につけることをめざしている心理教育“サクセスフル・セルフ”を実践している。プロセス評価に基づく改訂・実践を繰り返し継続することで、実践の前後において、緊張・不安の減少、社会性や対人関係に関する自己効力感の向上が見られている[1)]。

心理教育“サクセスフル・セルフ”[2)3)]は、多年代層・多職種に肯定的な変化の再現性が報告されており、心理社会的発達段階に沿って、小学生版、中学生版、特別支援学校版、高校生版、大学生版、新人医療従事者版が作成され、主に集団で、年間 4～12 の主題を年間 4～15 時間かけて行われている[1-4)]。

職場におけるメンタルヘルス対策は、国の政策として活発な取り組みが行われ、心の健康に関する問題は、ここ数年は前年度に比べると減少傾向が見られる。しかし、対人援助職の心の健康に関する問題については、憂慮すべき状況にある。内閣府自殺対策推進室の報告では、2013 年の自殺は、教員 108 名、医療・保健従事者 308 名で、これは被雇用者の自殺者の 5.7%、専門・技術職の自殺者の 53.3%を占めている。このうち職場の人間関係等勤務にかかわる問題が原因・動機とされた割合は、教員 28.1%、医療・保健従事者 27.4%であった。また、米国においては、230 以上の職業を対象に自殺に関する調査を行った米国国立労働安全衛生研究所（National Institute for Occupational Safety and Health）の報告では、非常に高い自殺率を示した職業は、心理職で、なかでも男性心理職の自殺率が高かったとされている。この背景には、自分に合った援助者を見つけることの難しさ、援助を求めることの時間のなさといった障壁がある。

## ２．研究の目的

本研究では、2004 年度から実施している心理教育“サクセスフル・セルフ”[1-4)]を、対人援助に携わる専門職、それを目指す訓練生へ対象を広げる。なかでも、これまでの結果を応用・発展させることが可能な学校教育ならびに医療に携わる対人援助職（教師、医療従事者）、欧米において自殺率の高さが際立っていた心理職を目指す大学院生を対象とする。

そして、心理援助の必要性を認識し希求しているにも関わらず、実際にそうすることに障壁を感じている対人援助職・訓練生の実態を重く受け止め、職業不適応を予防し、心の健康を保つためのセルフケア力を向上させる心理教育の開発を試みる実証的・実践的研究を行う。

開発にあたっては、これまで肯定的な変化が報告されている“サクセスフル・セルフ”[1)-4)]の知見を基盤に、セルフケア力の向上に関わる内容の作成を試みる。結果を基盤に、対象とした職場や訓練機関で活用可能なカリキュラムの作成、対象者自身が日常生活の中で実践可能なワークブックの作成を行う。

## ３．研究の方法

教師向けおよび医療従事者向けについては、実態調査を踏まえて試行している心理教育“サクセスフル・セルフ”対人援助職版のプロセス評価研究を行う。それを基盤に、セルフケアも取り入れた其々を対象とするプログラムを作成し、アウトカム評価研究を行う。

大学生版[3)]、新人医療従事者版[1)]、対人援助職版、2014年度の予備的実施・実態調査、先行研究の概観を踏まえて、心理臨床訓練生を対象とするプログラムを作成し、改訂を重ねながらプロセス評価研究を繰り返し行う。得られた結果をもとに、カリキュラムを提案し、ワークブックを作成する。

## ４．研究成果

### (1) 学校教師向け心理教育“サクセスフル・セルフ”

学校教師の心理的負担感と対処について、協力が得られた92名の教師からのアンケート回答について探索的検討を行った。その結果、心理的負担を感じるのは、主に人間関係や職場の在り方についてであった。心理的負担感への対処としては、主にコミュニケーションの充実、自己理解に基づく現実可能な取り組み、心にゆとりをもつであった[5)]。

これらを踏まえた心理教育“サクセスフル・セルフ”の作成を行い、協力の得られたA学校で実践を行い、評価に関する検討を行った。A学校での本取り組みは、数年前から続いている精神面で体調不良になる新採用や新転任教師への対策を目的とし、校内研修と位置づけて行われた。コミュニケーション能力を磨き困難な状況への対処法を学ぶことを実施目的とし、新採用及び転任者を対象に、年間5回、1回30分程度で、養護教諭および研修担当によって行われた。5回終了後にアンケートを実施した。

X年からX+4年度に参加した45名のアンケートを検討した。その結果、この研修が役立った・やや役立ったと思う人は、39名（87%）、今後の生活に役立つ・ややそう思う人は、39名（87%）で、凡そ9割の参加者は肯定的な評価であった。参加の感想として、「話すことが大切だと感じました。」「同じ様な悩みを抱えていることを共感でき意義があった。」等の記述が見られた。“サクセスフル・セルフ”のねらいと合致するものであった。また研修開始後、教職員間の人間関係における否定的な言動が減少し、新転任者のメンタルの不調者は減少した。

### (2) 多職種新人医療者向け心理教育“サクセスフル・セルフ”

対人関係能力を育み、職場での適応および円滑なチーム医療を促進することを目的として、心理教育“サクセスフル・セルフ”を行った。プロセス評価に基づく改訂を重ね、取り組みを統合して分析することで、多職種新人医療従事者を対象とした心理教育“サクセスフル・セルフ”の意義について検討した。

対象は、協力の得られたB総合病院へ各年度に入職した1年目の新人医療従事者152名（X+1年度23名、X+2年度21名、X+3年度18名、X+4年度29名、X+5年67名）であった。主な分析は、各年度の改訂内容、参加者による各セッション後の感想およびセッション前と最終セッション後の自己記入式調査によって行われた。その結果、改訂は、実施時期、実施回数、実施間隔、1セッションの時間、実践者構成、事前準備のあり方、教材で使用するシナリオに及んだ。介入前後の変化としては、セッション前から最終セッション後で、「社会性」、「対人関係に関する自己効力感」の向上が見られた。さらに3年目以降の群では、「緊張－不安」の減少も見

られた。以上より本取り組みは、新人医療従事者のこころの健康や対人関係能力を保持増進し、多職種チームで連携力を育む機会となったと考えられた[6)]。

X+5 年は、新たに新人の医療ソーシャルワーカーを含め、異なる 6 職種に就いている新人を対象に研修を実施した。また、数年来、4～5 月 に 4 つのセッションを行い、半年後の 10 月に 1 セッションを行っていたが、研修の効果を継続させるために、2～5 回目のセッションの実施間隔を 2～3 カ月として、4～11 月にかけて研修を行った。また、研修内容を保存し、振り返りやすくするため、本研修のワークブック[7)]を初めて作成し、これを用いたセッションを実施した。研修は、集団で、産業医、看護部長と教育担当看護師長、臨床心理士によって、年間 5 回、1 回 1 時間で行われた。研修修了後に、研修の役立ち度と感想を自記式質問紙で調査し、検討した。その結果、回答が得られた 52 名中 42 名（80.1%）が「役立った」と 回答した。研修修了後の感想分析から、「みんなで思いを共有することで、悩んでいるのは一人じゃないことに気づくことができた」等【思いや悩みの共有】(35 名)、「いろいろな人に相談し、新しい意見を取り入れていく大切さを改めて実感した」等【今後の展望】(17 名)、「毎日忙しい業務 の中で自分自身の行動を振り返る機会が少なかったため、よい時間となった」等【自己理 解の促進】(15 名)、「他職種のみんなと話しができて、楽しかったです」等【多職種の同期 との交流の場】(8 名）の 4 つのカテゴリが生成された。本研修は、他職種を含めた同期の多職種の新人が、自己理解を深め、多職種の同期との交流を通して、思いや悩み、頑張り、今後の展望を共有しうる機会となっていた。 実際、多職種の新人が自主的に同期会を開催する契機となっていた。このような多職種同期の仲間意識を促進することが、多職種の新人のこころの健康やチーム医療の実践に肯定的な影響を与える可能性がある。新人の初年度の退職者は減少した[8)]。

さらに、新人医療従事者の対象職種を拡大して、2 年間の実践の有用性について検討した。主な改訂は、X＋6 年には毎回変更していたグループ構成を、X+7 年は、新たに新人事務職員を対象に加え、固定したグループメンバーで研修を行った。さらに、管理職による各セッションのテーマに沿ったミニ講義を追加した。各セッション後に役立ち度と感想を調査した結果、いずれの年度も「役立たなかった」と回答した者はおらず、X+1 年度は 90%を超える人が「役立った」と認識していた。感想分析から、本研修は、多職種同期の仲間意識を促進し、心の健康やチーム医療の実践に良い影響を与える可能性が見られた[9)]。

(3) 心理職を志す大学院生向け心理教育“サクセスフル・セルフ”

心理教育“サクセスフル・セルフ”は、自分自身の感情、認知、行動を調整する力を身につけることで、こころの問題への予防や対処する力を高め、こころの健康を保持増進し、「社会の中で自分らしく生きる」基礎力を身につけることをめざして、自己理解、他者理解、自己コントロール、社会適応、ほどよい人間関係構築・継続、自己効力感の肯定的変容をねらいとしている。このような力を身につける手立てとして、マインドフルネスを活用したセルフケアも併用して行った。

心理職を志す大学院生を対象に、大学院での心理臨床教育として行った 3 年間の実践に関するプロセス評価分析を行い、本取り組みの意義について検討した。対象は、C 大学で心理職を志している大学院生 23 名(X 年度 7 名(I 群)、X+1 年度 10 名（II 群)、X+2 年度 6 名（III 群）)。選択必修科目として開講している授業として行った。いずれの群でも、1 回 2 時間、全 16 回で行った。X 年度実施は、オリエンテーション、概要説明、まとめの回を除いて、“サクセスフル・セルフ”に関しては、大学生版および新人医療従事者版を基盤とし、独自に作成した

心理職を志す大学院生版を用いて 13 セッションを行った。セルフケアに関しては授業期間の終盤に１セッションを行った。次年度以降の実践は、前年度の評価に基づいて、各年度において、“サクセスフル・セルフ”とセルフケアの構成、セルフケアおよびホームワークの内容について、改訂を行った。各セッション後に役立ち度と感想を調査した結果、いずれの年度も「役立たなかった」と回答した者はいなかった。授業全体に関する感想分析から、いずれの群においても、【自分について考える機会】(18 名)、【自己省察の実感】（11 名）が見られた。さらに、【自分に思いやりをもつセルフケアの大切さへの気づき】（5 名）は II 群でのみ、【自分を知る大切さへの気づき】(2 名)は III 群でのみ、見られた。本取り組みは「自分」と向きあう機会になっていると考えられた。本教育プログラムは、マインドフルネスや自分を思いやるセルフケアで気もちを整えてから、“サクセスフル・セルフ”に取り組み、ホームワークで日常につなげる構成が有用であると考えられた[10)]。これらを踏まえて、ワークブックを作成した[11)]。

＜引用文献＞


1) 安藤美華代．(2010).研修医の心理社会的ストレスを予防するための心理教育的プログラム“サクセスフル・セルフ”のプロセス評価研究．岡山大学教育学研究科研究集録，145，1-18．
2) 安藤美華代．(2007).中学生における問題行動の要因と心理教育的介入．風間書房．東京．
3) 安藤美華代．(2012).自己理解を深め人間関係力を育む心理教育“サクセスフル・セルフ”．岡山大学出版会．岡山.
4) 安藤美華代．(2012).児童生徒のいじめ・うつを予防する心理教育“サクセスフル・セルフ”．岡山大学出版会．岡山.
5) 安藤美華代．(2015)．学校教員の心理的負担感と対処に関する探索的検討．日本心理臨床学会第 34 回大会発表論文集，655.
6) 安藤美華代．（2015）．総合病院における多職種新人医療従事者の心の健康とチーム医療に関する研修－心理教育“サクセスフル・セルフ”の活用－．産業ストレス研究，22(4)，345-357．
7) 安藤美華代．(2015)．“サクセスフル・セルフ”ワークブック　チーム医療と人間関係力 Up．岡山大学安藤美華代研究室．(非売品）．
8) 安藤晋一郎・安藤美華代．(2018)．多職種新人医療従事者の心の健康とチーム医療に関する研修-心理教育“サクセスフル・セルフ”を活用して-．心身医学，58(6)，542-548．
9) 安藤晋一郎．安藤美華代．(2019)．多職種新人医療従事者を対象とした心理教育サクセスフル・セルフ―チーム医療と心の健康を育む研修―．日本心理臨床学会第 38 回大会発表論文集，328．
10) 安藤美華代．(2019)．心理職を志す大学院生のセルフケア力向上のための臨床心理教育―心理教育“サクセスフル・セルフ”とマインドフルネスの併用による心の健康教育のプロセス評価分析―．日本心理臨床学会第 38 回大会発表論文集，376.
11) 安藤美華代．（2020）．セルフケア力を身につけこころの健康を育む心理教育“サクセスフル・セルフ”の実践と展開　心理職をめざす大学院生・大学生向けワークブック．岡山大学版教科書　岡山大学出版会.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>安藤　美華代 | ４．巻<br>71 |
| ２．論文標題<br>臨床検査技師の医療現場での困難と困難を乗り越える体験に関する探索的検討 | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>岡山大学文学部紀要 | ６．最初と最後の頁<br>35-45 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>安藤晋一郎・安藤美華代 | ４．巻<br>58 |
| ２．論文標題<br>多職種新人医療従事者の心の健康とチーム医療に関する研修-心理教育“サクセスフル・セルフ”を活用して- | ５．発行年<br>2018年 |
| ３．雑誌名<br>心身医学 | ６．最初と最後の頁<br>542-548 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>安藤美華代 | ４．巻<br>70 |
| ２．論文標題<br>糖尿病医療における医療従事者の抱える困難と困難を乗り越える過程 | ５．発行年<br>2018年 |
| ３．雑誌名<br>岡山大学文学部紀要 | ６．最初と最後の頁<br>17-29 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>安藤美華代 | ４．巻<br>8 |
| ２．論文標題<br>学校運動部活動指導者の心理的負担感と対処に関する検討 | ５．発行年<br>2018年 |
| ３．雑誌名<br>岡山大学教師教育開発センター紀要 | ６．最初と最後の頁<br>45-57 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>川西沙緒梨・安藤美華代 | 4．巻<br>16 |
| 2．論文標題<br>初任期教員のストレス緩和におけるセルフ・コンパッションの役割とプロセスに関する質的検討 | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>岡山大学臨床心理学論集―岡山大学大学院社会文化科学研究科・心理相談室紀要 | 6．最初と最後の頁<br>17-25 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>安藤美華代 | 4．巻<br>15 |
| 2．論文標題<br>糖尿病医療における心理臨床的視点を取り入れた多職種協働チームでのケースカンファレンスの試み | 5．発行年<br>2017年 |
| 3．雑誌名<br>心理・教育相談の実践研究 | 6．最初と最後の頁<br>1-8 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>安藤美華代 | 4．巻<br>22 |
| 2．論文標題<br>総合病院における多職種新人医療従事者の心の健康とチーム医療に関する研修―心理教育“サクセスフル・セルフ”の活用― | 5．発行年<br>2015年 |
| 3．雑誌名<br>産業ストレス研究 | 6．最初と最後の頁<br>345-357 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

| |
|---|
| 1．発表者名<br>安藤美華代 |
| 2．発表標題<br>心理職を志す大学院生のセルフケア力向上のための臨床心理教育―心理教育“サクセスフル・セルフ”とマインドフルネスの併用による心の健康教育のプロセス評価分析― |
| 3．学会等名<br>日本心理臨床学会第38回大会 |
| 4．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>安藤晋一郎．安藤美華代 |
| ２．発表標題<br>多職種新人医療従事者を対象とした心理教育サクセスフル・セルフ―チーム医療と心の健康を育む研修― |
| ３．学会等名<br>日本心理臨床学会第38回大会 |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>安藤晋一郎・安藤美華代 |
| ２．発表標題<br>多職種新人医療従事者のこころの健康とチーム医療に関する研修“サクセスフル・セルフ”の実践 |
| ３．学会等名<br>第59回日本心身医学総会ならびに学術講演会 |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>安藤美華代 |
| ２．発表標題<br>特別支援学校教育に携わる教師のストレスとセルフケアに関する検討－困難に打ち勝つ自己効力感に着目して－ |
| ３．学会等名<br>日本心理臨床学会第36回大会 |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>安藤美華代 |
| ２．発表標題<br>糖尿病医療活動における医療者の困難感と心の健康 |
| ３．学会等名<br>第59回日本糖尿病学会年次学術集会 |
| ４．発表年<br>2016年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Ando, Mikayo |
| ２．発表標題<br>A preliminary study on training to enhance self-care and prevent burnout among graduate trainees in clinical psychology using the psychoeducational program, "Successful Self". |
| ３．学会等名<br>The International Congress of Psychology 2016（ICP2016）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2016年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>安藤晋一郎　安藤美華代 |
| ２．発表標題<br>多職種新人医療従事者の心の健康とチーム医療に関する研修-心理教育“サクセスフル・セルフ”を活用して- |
| ３．学会等名<br>第40回日本心身医学会中国地方会 |
| ４．発表年<br>2016年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>安藤美華代 |
| ２．発表標題<br>学校教員の心理的負担感と対処に関する探索的検討 |
| ３．学会等名<br>日本心理臨床学会第34回秋季大会 |
| ４．発表年<br>2015年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Ando, Mikayo |
| ２．発表標題<br>Psychoeducational training to enable clinical laboratory technicians who perform medical examinations to understand the psychological status of patients. |
| ３．学会等名<br>The 23th World Congress on Psychosomatic Medicine（国際学会） |
| ４．発表年<br>2015年 |

〔図書〕　計4件

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>安藤美華代 | 4．発行年<br>2020年 |
| 2．出版社<br>岡山大学出版会 | 5．総ページ数<br>168 |
| 3．書名<br>セルフケア力を身につけこころの健康を育む心理教育“サクセスフル・セルフ”の実践と展開　心理職をめざす大学院生・大学生向けワークブック | |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>安藤美華代 | 4．発行年<br>2020年 |
| 2．出版社<br>(非売品) | 5．総ページ数<br>56 |
| 3．書名<br>“サクセスフル・セルフ”ワークブック　第3版　チーム医療と人間関係力Up!. | |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>安藤美華代 | 4．発行年<br>2017年 |
| 2．出版社<br>(非売品) | 5．総ページ数<br>54 |
| 3．書名<br>“サクセスフル・セルフ”ワークブック　第2版　チーム医療と人間関係力Up!. | |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>安藤美華代 | 4．発行年<br>2015年 |
| 2．出版社<br>(非売品) | 5．総ページ数<br>52 |
| 3．書名<br>“サクセスフル・セルフ”ワークブック　チーム医療と人間関係力Up! | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|---|
| サクセスフル・セルフ”に取り組んでいるまたは関心のある心理職、学校教育関係者、医療関係者、心理学・教育学系の大学院生・大学生が交流する場として、年1回、サクセスフル・セルフ研究会を開催している。 |

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|